

研修会内容(令和3年度)

参加者数
45団体 74名



○プログラム

— 8月11日(水) ZOOMによるオンライン会議 —

- 開会挨拶 中越大震災ネットワークおぢや会長 丸山 久一
中越大震災ネットワークおぢや副会長 大塚 昇一

- 会員研修 13:30~16:40

【講演】講演①「3.11東日本大震災からの浪江町の経験」

福島県浪江町総務課防災安全係 係長 横山 芳幸 氏

講演②「令和3年福島県沖を震源とする

地震に係る災害対応について」

宮城県亘理町総務課安全推進班 主査 遠藤 匡範 氏

【質疑応答】

コーディネーター：常葉大学大学院環境防災研究科 教授 田中 聡 氏

【グループディスカッション】

議題①「講演を聞いて考えることについて」

議題②「新型コロナウイルス感染症拡大防止の

対応下における災害対応について」

- 総会 16:40~17:05

- 閉会挨拶 中越大震災ネットワークおぢや副会長 重川 希志依



開会のあいさつをする
ネットワークおぢや丸山会長
(長岡技術科学大学 名誉教授)



開会のあいさつをする
ネットワークおぢや 大塚副会長
(新潟県小千谷市長)

講演①

3. 11東日本大震災からの浪江町の経験

福島県浪江町総務課防災安全係 係長 横山 芳幸 氏

平成23年3月11日、14時46分、東日本大震災が発生し、浪江町では震度6強を観測、その後、約15mを超える津波が沿岸部を襲い、甚大な被害をもたらしました。

また、東京電力福島第一原子力発電所の事故により複合災害にも見舞われました。

そうした中、膨大な業務が一遍に起こる災害初動期の対応において、防災担当だけでなく全庁的な体制の構築が必要であると痛感したことや、震災当日から現在に至るまでの避難対応や被災者への配慮など初めて直面した大規模災害に対する様々な苦労、住民とともに、故郷の大切さを思いながら復興計画の策定を行った経験についてお話いただきました。



【初動】
災害時の参集（自主性、日中・夜間の参集規模）
災害対応の体制（避難所・物資調達・広報活動など） など

【復旧】
再開する業務の順序・仮設住宅の整備・インフラ復旧 など

災害を被ると莫大な業務が発生します。
円滑に対応するため、自治体も日ごろの備え
（備蓄・訓練など）が大切です！

講演②

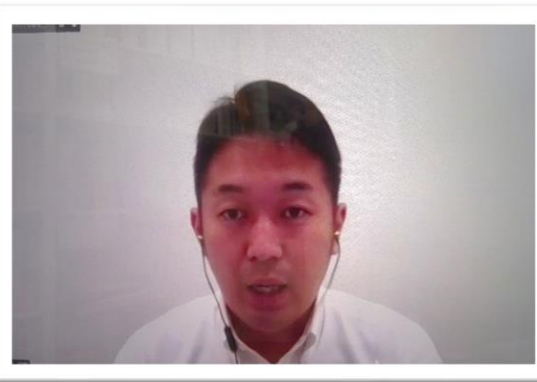
令和3年福島県沖を震源とする地震に係る災害対応について

宮城県亘理町総務課安全推進班 主査 遠藤 匡範 氏

東日本大震災を契機に亘理町では、平成26年に地域防災計画の見直しと津波計画の新規策定、令和2年に業務継続計画を新規策定しました。

業務継続計画策定にあたっては、職員はいつでも災害モードに切り替えられる心の準備が整っていることと、初動の出遅れがその後の対応の致命傷になることから、それらを防ぐことを重要視しました。防災担当としては、職員が能動的に災害対応に当たれる体制となることを狙いとして、抜き打ちの初動訓練を実施しました。

この訓練で職員が担うべき役割を再確認したことで、令和3年2月13日に発生した福島県沖を震源とする地震の際には、冷静に災害対応することができたことについてお話いただきました。



2/13 福島県沖地震

【対応方針の骨子】

- 避難を呼びかけない・避難所開設しない
(担当職員は行かせて現地対応体制に)
∴ 緊急度ある通報ゼロ・道路状況が不明
- 職員の安否確認を最優先にすること
- 被害状況等の現地調査は翌朝から行う

ZOOM状況



コーディネーターの常葉大学大学院
環境防災研究科教授 田中 聡 氏



遠藤氏へ質問：避難所を開設した場合に、新型コロナウイルス感染症対策をどのように考えていたか。

回答：宮城県がガイドラインを示しており、即した形で検温や問診の実施を予定していた。また令和2年4月にチラシを町民に配布し、避難所に着いてもすぐに入らないよう周知していた。

大洲市へ質問：西日本豪雨の時の受援体制はどうだったか。また現場はどのような対応をしたか。

回答：大まかに何人ぐらい必要かという問に対して何人ぐらい必要という回答をした。来ていただいた中で、被災エリアの有無が混在していたため、通常業務と災害業務の中で割り振りを考えるのが大変苦労した。

横山氏へ質問：若い人も含めて、ネットだけでは生活再建に関わる情報を伝えるのは難しいか。

回答：若い人はネットでも良いが、高齢者全般に周知を図ることは難しい。そのため、広報誌の紙面に載せて周知を図ったり、要支援者に対しては所管課から連絡をしている。被害を受けた方が一定程度特定されれば個別に伝達している。

全会員へ質問：亘理町のような抜き打ち訓練を自治体で行っているか。

回答：飯田市・常総市で実施

飯田市：目的型の図上演習訓練を実施し、避難所の開設などを行っている。

常総市：水害の発生時期前に参集訓練を実施。参集率を算出し、業務を効率的に対応できるのか確認をしている。

グループディスカッション

参加された45自治体を7つのグループに分け、40分間のグループ討議を行ない、各グループで出た意見を代表者から発表をしていただきました。

議題①講演を聞いて考えることについて

議題②新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応下における災害対応について

議題①について

- ・抜き打ち訓練を自分達の自治体でも行いたいという意見が多くあった。
- ・抜き打ち訓練を行うには、事前準備の段階でいろいろと課題を感じた。
- ・避難所運営は防災部局だけでなく、施設管理者の方なども含めて運営サイクルを考えなければならぬと感じた。
- ・自助・公助をどのような形で取組んでいくか課題に感じている。
- ・避難所運営で物資の需要と供給の難しさを感じた。
- ・訓練の一部で避難所宿泊体験を取組んではどうかと意見があった。

議題②について

- ・スペースの使い方や動線の問題が課題となっている。
- ・避難所開設セットを準備し、防護服などを用意している。
- ・分散避難、在宅避難を推奨している。
- ・問診票や、健康チェックシートを活用している。
- ・避難所となる学校の教職員と事前に打合せを行っている。
- ・コロナ給付金という形で自己防衛で対策をしてもらっている。
- ・避難所の混雑状況がわかるアプリを使用している。

閉会の挨拶

様々な災害が起きている中で、最も大きかった災害というのが、新型コロナウイルス感染症対応に翻弄されたことかと思います。新型コロナ対応の中には、災害時に役に立つ、危機を乗り越えるノウハウはたくさんあると思います。役所の中でも部局を超えて、ノウハウを共有していただけると、なお一層前進があるかと思います。



閉会のあいさつをする
ネットワークおぢや 重川副会長
(常葉大学大学院環境防災研究科 教授)

研修会参加者の感想

- ・東日本大震災の被害の甚大さを確認できたとともに、他市町の取り組みを知ることが出来て大変有意義でした。
- ・災害対応の中でも、特に発災時の対応が重要であり、円滑に対応するためには普段からの備えが重要であるということを再確認しました。
- ・今回研修を受けた2名は今年度から防災関係課の所属となり、講演の内容が基本的なものから取り上げていただいたので、有意義な研修となりました。
- ・オンラインでの研修会でもグループワークができたのですごく充実したものになりました。
- ・東日本大震災の対応をした方の行政の動きや、問題点など具体的に聞くことができ非常に勉強になった。